

干

六年 画数 二 筆順 二 干
カン
ほりす・ひりる

成り立ち



先が二またに分かれた「ほこ(刺す武器)」の形を表した字です。

「武器を使って『侵す』こと」を表した字です。例)干犯。

「武器を使って『防ぐ』」という意味から、「防ぐ武器の『たて』」の意味にも使われます。例)干戈。

「乾(ほす、ひる)」の意味にも使われます。例)干物、梅干し、干拓、干潮。

また、「関(かかわる)」という意味にも使います。例)干与、干渉。

使い方

▽過去、世界の大国は二度にわたって干戈を交えました。第一次世界大戦、第二次世界大戦が、それです。その結果、国と国民は、非常な痛手を受けました。もう、これ以上、世界の国々が干戈を交えるようなことがあってはなりません。

▽日本は耕地が狭いので、昔から沼や海などを干拓して、耕地をふやそうという試みがされて来ました。干拓は大事業ですが、耕地がふえれば米の収穫量がふえ、人々の暮らしが楽になるからです。

熟語例

- ▽干犯(他人の権利を侵すこと。)
- ▽干戈(盾と戈。武器のこと。戦うことを「干戈を交える」と言います。)
- ▽干物(魚や貝などを干した物)
- ▽干拓(湖や沼や海などを干して、耕地などにすること。)
- ▽干潮(潮がひいて、海面の高さが低くなること。)
- ▽干与(関わること。「関与」とも書きます。)

卷

六年 画数 9 筆順 9 卷 卷
カン
まじく・まき

成り立ち



「二人で分ける」という意味の「夨(券5年697)」と、「糸」の形を表した「己(6年876)」とを組み合わせて作った字です。「二人に分かれて、糸を『まき』」ことを表した字です。

糸を糸まきに『まき』時には、二人でしないとまきことができませぬ。「糸を『まき』」ことを表した字です。

今は、糸にかぎらず、「巻物」「巻尺」など、広く『まき』ことの意味に使われています。

昔の書物は「巻物」でしたから、「書物」の意味にも使われます。例)巻頭、開巻、圧巻、全巻。

〔旧字体は「卷」で、夨と己(印)との会意・形声字で、券と同じく「割符」「証文」の意味を表した字であるが、専ら「文書」の意味に用いられた。〕

使い方

▽体育の時間に、走り幅とびをしました。とんだ後で一人一人の記録を巻尺で測りました。足の速い人は、たいてい走り幅とびでも良い記録を出しました。

▽わたしは、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』を読みました。とても悲しい、でも、すばらしい本でした。圧巻は、主人公のジャン・バルジャンが、傷ついたマリユスという青年をかついで、パリの下水道を歩いて行く所で、わたしはハラハラしてしまいました。

熟語例

- ▽巻物(書物や絵画などを軸に巻いたもの。昔の本)
- ▽巻尺(巻いて小さくできるようになった、長い所や物をはかる時に使うものさし)
- ▽巻頭(書物のはじめの部分。「巻頭に、著者の写真がある」などというふうに、つかいます。)
- ▽開巻(書物を開いた、はじめの文章の部分。「開巻から、ひきつけられて、一気に読み終わった」などというふうに、つかいます。)
- ▽圧巻(その書物の中で、一番すぐれた部分。昔、中国の試験で、一番すぐれた答案を上に乗せたから。)